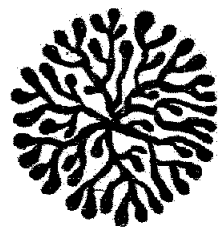
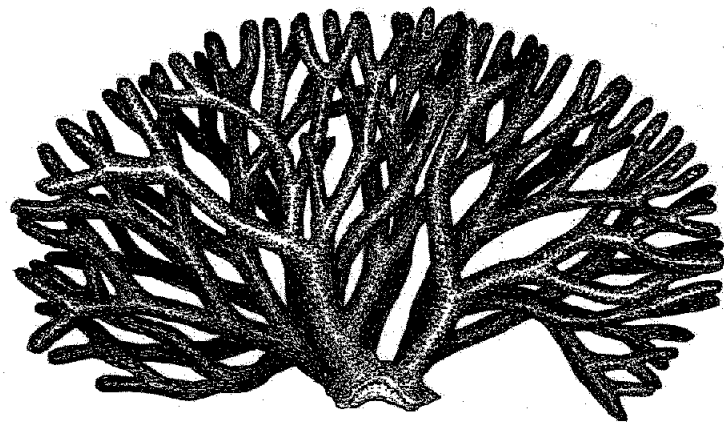


はり ま たん けん 播 磨 探 検

2020.4.17
291号
ええ赤松弘一



海松紋(みるもん)

ミル(ミル科)海松
長さ20cm 太さ5mm
学名 *Codium fragile*

3月20日の春分の日、私は姫路市東部の大塩海岸で漂着物調査兼食物採集を行っていた。前日からの強い南風が高い波を呼び、様々な生物を打ち上げているに違いないとにらんだが、めぼしいものは見当たらなかった。昨年末から何度も来ているが最近収穫がない。「海の恵みを糧に生きていくことは難しい……まじめに働こう」と思いつつ歩いていると、ようやくナマコが見つかった。打ち上げられて「完全にシンデマス」状態だったが、私は知っている。彼(彼女)は潮が満ちて再び波と共に海に戻るのを待っているのだ。「ぐによーん!」と伸びているナマコを指でつつくと「ウヒョッ!」と縮んだ。「すまん、ご馳走様」結局大小取り混ぜ5匹のマナマコ(青ナマコ)の水揚げがあった。他に白いナマコが一匹見つかったが、図鑑の白ナマコとは少し様子が違っており詳細は不明である。他には完璧な星形をしたモミジガイという青灰色のヒトデが見つかった。また波打ち際で樹枝状の緑のカイメンを見つけたので、詳しく調べようと思い持ち帰った。

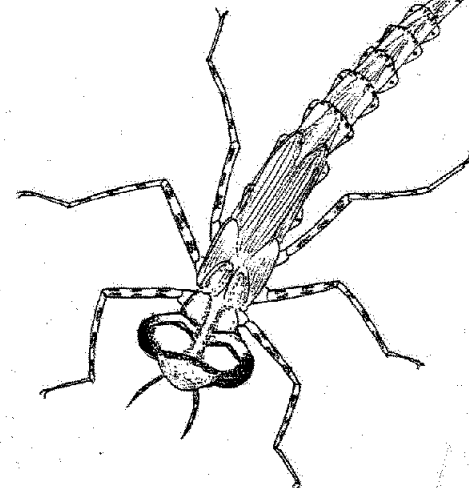
その晩、マナマコ5匹はすべて二杯酢でおいしくいただいた。樹枝状のカイメンは数冊の図鑑で調べたが掲載がない。小学生時代から使っていた魚介の図鑑では淡水カイメンとして、似たものの絵が載っているが、海棲のカイメンには記載されていない。手触りは弾力があり表面はざらついている。まさにスポンジ(海綿)っぽいのだが。いったいこいつは何という海綿なんだとぼやきながら「海辺の生きもの」という図鑑(山溪フィールドブックス)を見返していると、いきなりそいつが載っていた「あったあ!」それは藻類のページだった。カイメン動物と思い込んでいたために見逃していたのだった。こいつはミルという名前の緑藻類だった。ザラザラした手触りは表面に棍棒状で先が尖った細胞がびっしり並んでいるためらしい。熱帯から温帯の海底の岩礁に普通に生息しているようだ。日本では今は食べられていないが、奈良飛鳥時代には食べていたとか。韓国やハワイ、インドなどでは今も食べられているという。残念ながらそれを知ったのは、写真を撮って絵を描き、ミルを白いナマコとヒトデと一緒に元の海岸に戻した後だった。今度手に入ったらぜひ食べてみよう。

ミルは漢字では海松と書く、これでなぜミルと読めるのかわからないが、細長くて緑の棒状の枝が2つに分岐して茂っている様子は海の松と呼ぶにふさわしい。ミルのこの形は海松紋として昔から着物の模様などに使われている。

中庭蓮池

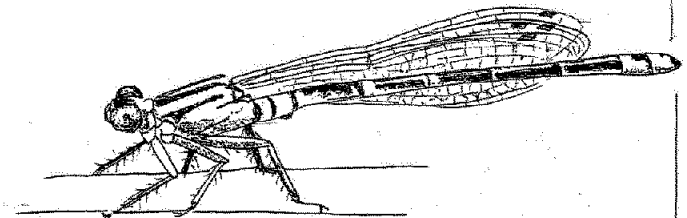
水棲生物調査報告

クロイトトンボの仲間
幼生(ヤゴ) 体長23mm



クロイトトンボ 黒糸蜻蛉
体長30mm前後

オスは胸や腹の末節2つが青い
学名 *Paracercion calamorum calamorum*



今年は学校のサクラがまだたくさんの花を残している。学習園で草抜きをしているとたくさんのツチガエルが飛び出してきた。そんな陽射しが暖かい4月半ば、夏に向けてプールの水を抜く前に水生生物の調査を行った。水底には藻類や落葉が混じった泥が堆積していたが、水は澄んでいる。網で泥をすくって調べると、アカネトンボ系のヤゴの他、コムズムシやユスリカの幼虫などが見つかった。まだヤゴは小さく水が抜かれるまでに羽化して脱出できるかは微妙である。「はよせなあかんで!」とこの小さな生き物に教えたいが、そう簡単ではない。

中庭の池でも同じように調査したが、網の中にはウシガエルの大きなオタマジャクシがたくさん入った。40mmほどの大きさで、まだ手も脚も出ていないが、これから水温が上がると共に増加するミジンコや水世昆虫などの動物質のえさを食べて急激に成長するだろう。他にはクロメダカとイトトンボのヤゴが見つかった。ヤンマやトンボのヤゴは成虫に比べて腹が短い、ところがこれが羽化すると腹の長さが倍以上にもなる成虫が出てくるのが不思議で、「なんでやねん」と突っ込みたくなる。イトトンボのヤゴは成虫と同じようにスリムで腹が長く「そらそやろ」と納得できる。またイトトンボのヤゴは尾部に3本の鳥の羽のような細長い突起があるのが特徴である。これは気管鰓というエラで、水中生活するヤゴはこれで酸素を取り入れている。ヤンマやトンボのヤゴでは、エラは直腸の中にあるため外からは見えない。肛門から水を吸い込んで直腸内のエラで酸素を取り込む。

今回見つけたヤゴはエラに3つの黒い紋がある特徴から、クロイトトンボの仲間だと思われる。ヤゴは成虫と同じく肉食性で、水中の小動物を捕らえて食べる。ヤンマなどの大きなヤゴは、メダカやオタマジャクシに食いついて体液を吸ったりするようだ。ヤゴの語源は「ヤンマの子」がヤン子→ヤゴとなったとか。

昨年末から新型コロナウイルスが世界中に蔓延している。4月17日の新聞の朝刊は、世界で207万人以上が感染し死者は13万8千人に達したと報じている。今がこの災厄の頂点であればいいが、これからどうなるのか……。終息に向かうことを願うばかりである。学校は4月9日から臨時休校になり、ひっそりとしているが、自然の生き物たちは人間の苦悩を尻目に春の陽気の中で命を輝かせている。